

研究基盤を支える新規技術職員育成の取り組み

松浦 香織
鳥取大学 技術部

1. 概要

人手不足や業務の多様性から、共用機器管理に携わる新規技術職員の育成は難しいが、大学間の連携による教育資料の拡充や大学独自の工夫によって育成環境は改善され続けている。本発表では鳥取大学における新規技術職員(筆者)の人材育成の取り組みについて紹介する。各取り組みのメリットデメリットを踏まえた人材育成の現状や改善点を考えるきっかけになれば幸いである。

2. 具体的な人材育成の取り組み

共用機器管理業務の属人化を解消するため、分野横断的に幅広い分析機器について学ぶことを念頭に置き、以下のような研修が行われた。

- ① 大学連携設備ネットワークによる講習会
- ② 分析機器メーカーによる講習会
- ③ 先輩職員による操作講習会
- ④ 書籍・インターネットによる学習
- ⑤ OJT (依頼分析・トラブル対応・メンテナンス)
- ⑥ 標準試料を用いた測定練習
- ⑦ 愛媛大学における長期研修
- ⑧ 本学技術部の全 11 分野における業務体験研修
- ⑨ 機器・分析技術研究会 参加
- ⑩ 技術人材育成会の輪読会 (有機化学) 参加



図1. 本学技術部全 11 分野における研修の様子

3. 研修の成果

複数機器において利用者のトラブルへの対応やメンテナンス及び標準試料の測定が出来るようになった。また、愛媛大学の研修では同じ分析系技術職員でも大学ごとに在り方が異なることが分かった。本学技術部の全分野における研修では、他分野の技術職員がどのような技術を持ち、どのように鳥取大学に貢献しているのか学んだ。さらには、研究会等の参加を通じて他大学技術職員との繋がりができた。

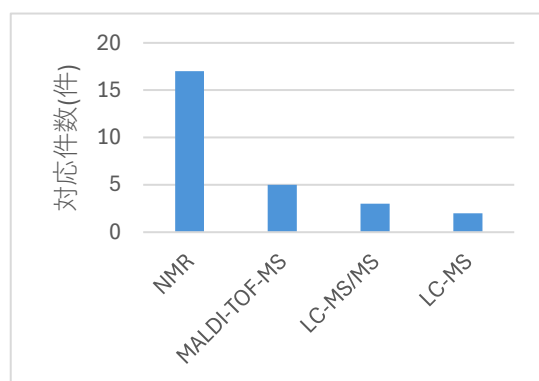


図2. 主担当者不在時に筆者が対応した機器トラブルの件数

4. 人材育成の提案：自分が後輩を育成するとしたら・・・

当事者として感じた各研修のメリットデメリットを踏まえ、自分なりに考えた人材育成のスケジュールを提案したい。当日は皆様の意見もお聞かせいただき、人材育成について考える場になれば幸いです。

謝辞 人材育成にご尽力いただいた愛媛大学技術部および鳥取大学技術部の皆様に感謝いたします。